

人と自然が輝く水源の郷



道志小学生による農業体験

- 定例会（平成30年度一般会計補正予算審議、他）…………… P 2
- 議案等の質疑（ふるさと納税の現状は、他）…………… P 3～4
- 一般質問（2人が問う）…………… P 5～6
- 議会活動報告（第9回源流サミット、他）…………… P 7～9
- あの一般質問は・今（森林整備計画の作成は、他）…………… P10
- 紹介（道志村消防団）／がんばる人紹介（両国屋 湯川 和則さん）…………… P11～12

12月 定例会

平成30年度一般会計 特別会計補正予算審議等

[会期日程] 12月11日(火)～14日(金)4日間

おもな審議事項

●一般会計補正予算 2,850万円を追加し、総額20億9,343万円で議決

おもな財源 (補正分)	・地方交付税(普通交付税)……………1,661万円
	・県支出金(農林水産業施設災害復旧費補助金、他)……………532万円
	・村債(商工観光推進事業債、災害復旧費、他)……………650万円
おもな使いみち (補正分)	・民生費(子育て支援事業費、福祉センター費、他)……………277万円
	・商工費(観光施設等維持管理事業、他)……………445万円
	・教育費(義務教育振興費、他)……………735万円
	・災害復旧費(農地災害復旧費)……………700万円

●特別会計補正予算 4件の特別会計を審議、議決

- ・道志村国民健康保険特別会計……………1,996万円の減額
- ・道志村国民健康保険診療所特別会計……………26万円の追加
- ・道志村介護保険特別会計……………59万円の追加
- ・道志村浄化槽事業特別会計……………77万円の追加

●条例改正

- ・道志村職員給与条例の一部を改正する条例

議案等番号	件名	審議結果
議案第52号	道志村職員給与条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第53号	平成30年度道志村一般会計補正予算(第3回)	原案可決
議案第54号	平成30年度道志村国民健康保険特別会計補正予算(第2回)	原案可決
議案第55号	平成30年度道志村国民健康保険診療所特別会計補正予算(第2回)	原案可決
議案第56号	平成30年度道志村介護保険特別会計補正予算(第2回)	原案可決
議案第57号	平成30年度道志村浄化槽事業特別会計補正予算(第2回)	原案可決
閉会中の継続調査について		原案可決

QA 議案等の質疑



Q ふるさと納税の現状について

●増加するための対策は？

A 昨年度の返礼品は5品目、寄付金額は80万円でした。今年度は返礼品を20品目に追加したことにより、12月現在の寄付金額は約210万円になっております。

(追加したおもな返礼品：道志の水・ジャム・焼酎等)

Q 高校生通学支援実証運行事業の現状について

●利用者からの聞き取り調査結果は？

A 吉田方面(2便/日)、都留方面(1便/日)の合計3便で実施、現在26名が利用しています。利用状況は、吉田方面の利用者が多く、都留方面は今後利用者の増加が期待できます。アンケートでは今後も継続してほしいとの声が多くありました。

Q 旧道志小学校の解体について

●現在までの進捗状況は？

A 現在、解体業者の公募が終わり業者選定の段階です。



Q 村営住宅（2棟）建設場所の検討について

●現在進行中の場所以外での考えは？

A 現在は神地地区グリーンロッジ跡に2棟を建設予定で進んでいます。日当たりのいい土地がベストなのはわかりますが、費用負担等の面から村所有の土地活用を考慮し計画しました。

Q オリンピック、自転車ロードレースの計画と進行は

●自転車サポートステーションの設置、ボランティア募集計画は？

A 自転車サポートステーションは、村内で30か所位の予定に対し現在10か所程度が決定しました。ボランティア募集は県担当者と協議中ですが、来年1月中旬には確定し募集を開始します。

Q 小学校英語教育必修、教科化の対応について

●2020年度、5・6年生教科化の対応は？

A 小学校教科化の対応は、教職員は県の研修会、教育委員は説明会等の研修をしています。また中学校のALT（外国語指導助手）により小学校全学年で英語活動を実施しています。



Q 村内消火栓のホースの設置状況について

●各消火栓のホース数は充分か？

A 今年度消防団より要請のあった、本数の補充、破損ホースの取り換え等は現在では全て完了しました。



Q 平成31年度地域おこし協力隊員採用について

●活動内容と募集人員は？

A 平成31年度は、①農林漁業の6次産業化②英語活用学習支援サポート③サテライトオフィス誘致サポートに、各1名ずつで3名の募集を平成30年11月30日から平成31年1月31日まで行います。



山口博康 議員

Q 国道・県道の通行止め等の解除について

A 住民の安全を第一に考え現時点では通行止め

山口

今年は、台風や集中豪雨による大雨でたびたび通行止めとなりました。停電も重なり、村民の経済活動に大きな支障をきたしています。

道路の安全対策も進んでおり、送電線も4箇所から入っています。早期の復旧が可能と思われるので、関係機関と協議して利便性が図れないか。

Q① 通行止めの雨量基準を引き上げるよう県に要望できないか。

村長

台風のたびに、通行止めになり、村民生活に支障がでています。その対策方法や改良工事を建設事務所で行っていますが

スムーズに進まないのが現状です。

道路管理者は、住民の安全を第一に考えるため通行止めの処置をとらざるを得ない状況です。

産業振興課長

通行止めの基準は、各路線を分析し設定されています。改良工が進み改善することで降雨量の基準を引き上げる事が可能です。

村として引き続き危険個所の解消に向けた改良の要望を行っていきます。

Q② 災害時は、村内業者を総動員できるよう、県と交渉は。

産業振興課長

県に確認したところ、複数個所が被災したり、大規模な災害の場合にはその都度県で対応を考え

ることでした。

Q③ 五輪の所のバリケードを少し峠寄りに移動できないか。

産業振興課長

道坂峠、山伏峠ともにゲートの位置について、適切な位置に移動の為に建設事務所と協議中です。

Q④ 停電時は、4箇所からの送電をフル

活用できるように東電に交渉できないか。

総務課長

今回の停電は、村内各所で倒木による送電線の断線が原因で復旧作業に時間がかかりました。村は別の地域4ルートから電力供給出来るので東京電力が構築している村内への送電システムは、十分に活用されていると思います。



強風による電柱の倒壊

Q 風疹予防に対する村としての体制は

A 厚生労働省の方針結果を待って対応する



大田博文 議員

大田

厚生労働省は風疹ワクチンの接種率の低い30代〜50代の拡大を想定し、公的な予防接種の対象年齢を拡大し、無料で受けられるとの報道があったが、村として、その対応策は。

住民健康課長

十分な免疫をつけるためには、2回の接種が有効ですが、過去に予防接種を受けられなかった30代〜50代の男性は免疫を持たない人が多くなっています。

このため厚生労働省は同年代男性を対象に免疫の有無を調べる抗体検査の無料化を検討しているため、この結果を待って対応します。

また、村では小学6年生〜49歳以下の村民を対

象に麻疹・風疹混合ワクチンの助成を一人1回限り5000円で実施しています。

Q 野生鳥獣被害対策について村では、防護柵の設置等の対策を講じているが、なお、鳥獣被害は後を絶たない状況である。これらの対策はあるか。

産業振興課長

現在、村の野生鳥獣被害対策は鳥獣被害防止柵の設置と個人が設置した防護柵やネット等の資材に対する助成の2事業を行っています。

本村は地形的条件から根本的な解決は難しく、今後は各圃場ごとの対策が必要と考えています。



鳥獣被害防止柵

議会活動報告

● 全国町村議会広報研修会

平成 30 年 10 月 10 日

全国町村議会議長会主催の「北海道・東北・関東地区」広報研修会が東京都千代田区の砂防会館にて行われ、委員 2 名と事務局主幹の 3 名にて参加しました（本県からは 7 町村の参加）。講演は 3 部門「読み手に伝わる文章の書き方」「デザインの力で、もっと伝わる議会広報誌に」「最優秀賞及び優秀賞（総合 2 位）作に見る光彩を放つ編集力」でした。今回も要約すると、いかに読みやすい、読んでもらえるには、の内容でした。「どうし議会だより」も多くの講演に参加するたびに少しずつ進化させていきたいと考えています。



● 第9回全国源流サミット

平成 30 年 10 月 20 日



「つながって、まもろう未来に向けた、川のある暮らし。」をスローガンに島根県津和野町体育館で開催され、映画監督で現在「高津川」の撮影中である島根県出身の錦織良成氏の「高津川の魅力」と題した講演がありました。

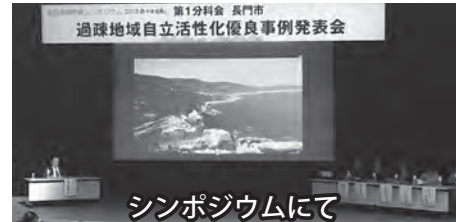
その後東京農業大学の宮林教授をコーディネーターに、パネラー多摩川源流研究所所長中村文明氏他地元 N P O 法人代表 3 氏による「流域連携による持続可能な社会づくり」をテーマに、パネルディスカッションがあり、活発な意見交換がありました。源流地域の活性化や魅力づくりの良い参考になりました。

● 全国過疎問題シンポジウム IN やまぐち

平成 30 年 10 月 25 ～ 26 日

山口県総合保健会館多目的ホールにて、平成 30 年度過疎地域自立活性化優良事例表彰式が行われ、総理大臣賞に 4 団体、全国過疎地域自立促進連盟会長賞に 5 団体の表彰がありました。その後、持続可能な地域社会総合研究所長 藤山浩氏による「田園回帰の時代～人と仕事を取り戻す 1% 戦略」と題した基調講演がありました。

26 日の分科会（長門市ラポールゆや）では、前日受賞された 5 団体の地域の活性化や人口減少対策など成功事例の発表があり、大変役に立ちました。今後の活動に生かしていきたいと思えます。



● 婚活 in どうし

平成 30 年 11 月 10 日

結婚相談員主催による「第 9 回満天の星とたき火 de 婚活」が開催され、村内外から 30 代、40 代の独身男女 24 名の参加がありました。イベント当日は天候に恵まれ、日中は過ごしやすく、薪集め、ゲームを楽しみ、夕食は囲炉裏でイワナを焼き、道志ポークとクレソンのしゃぶしゃぶを堪能しました。夜は室久保のキャンプ場に移動し、たき火、竹ランプを灯し、最高のロケーションで満天の星を眺め交流を深め 4 組がマッチングしました。議会では参加者の送り迎えやイワナ焼の準備などを手伝いました。今後とも結婚相談員と連携し、人口増加対策に取り組んでいきます。



● 建設厚生委員会活動報告

平成 30 年 11 月 22 日

10 月 1 日の台風 24 号の豪雨で、国道 413 号相模原市青根地区内で、大きな土砂崩落があり、通行止めとなりました。橋本方面には遠く迂回をすることとなり、村民にとっても大きな支障となりました。

10 月 6 日現地調査を行い、状況を村当局に報告しました。10 月 17 日には議長他数名で再度現地調査を行い、津久井地区の 2 名の市議員と復旧状況の確認・その後の進捗状況の報告・通行止め解除の見込み情報等を道志村にも提供して頂くよう協議しました。相模原市の早急な対応により 12 月 4 日より市道橋津原線が通行可能となりました。



議会活動報告

● 平成 29 年度山梨県東部広域連合議会報告 平成 30 年 11 月 26 日

3 市 3 村（都留、大月、上野原、道志、小菅、丹波山）で構成している広域連合の主要事業である会議認定審査会について報告します。

1、介護認定審査会の設置

※介護認定審査員数 35 人（定員 60 名以内）（都留市 12 名、大月市 12 名、上野原市 11 名）

2、介護認定審査会の開催状況

平成 29 年度（29 年 4 月 1 日～ 30 年 3 月 31 日）一ケ年の市町村からの審査依頼件数 4770 件に対し、介護認定審査会を 146 回開催し前年度末処理分を含め 4833 件の判定を行いました。

※市町村判定件数

都留市 1494 件、大月市 1573 件、上野原市 1537 件

道志村 98 件、小菅村 69 件、丹波山村 62 件、計 4833 件

3、その他

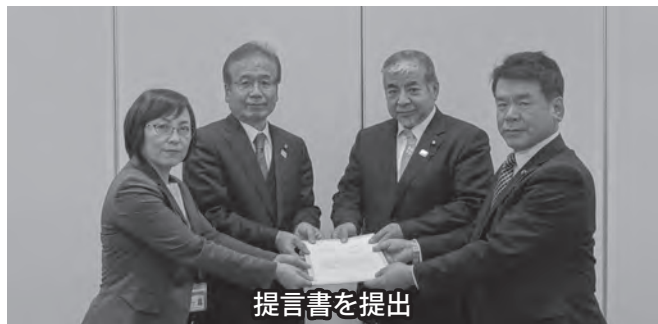
山梨県東部広域連合議会として現在 3 市 3 村の消防の広域化について県の動向を見ながら研修会、先進地視察を実施しています。

● 総務文教委員会 平成 30 年 11 月 27 日

総務文教委員会では、以前より協議してきた課題を 5 項目に集約し、村への提言書としてまとめました。

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1、スポーツプラザ屋内プールについて | 4、移住対策について |
| 2、小中学校グラウンドについて | 5、学校教育環境の改善について |
| 3、池の原周辺の道路環境について | |

学校教育環境の改善については、12 月 3 日、議長と委員長が教育委員会へ提言書を提出いたしました。また、今後はその他の項目を村長への提言書としてまとめ、提言を行う予定です。



提言書を提出

あの一般質問は今…

平成29年4月定例会

質問

ふるさと納税の取り組みと実績は

答弁

28年11月から楽天ふるさと納税サイトに出店し、対前年度比でみると件数で20%、金額で10%の増となっています。

平成26年12月定例会

質問

道志村の一体的な森林整備計画の作成は

答弁

道志村の森林整備計画は、平成25年度に作成済みである。

質問

山梨県の森林整備計画の見直し促進を

答弁

山梨県への計画見直し提案は検討する。

その結果今は



現在は南都留森林組合の森林経営計画と道志村森林整備計画に基づいて、第25林班(*)から27林班で間伐整備を実施している。また、山梨県の森林整備計画の見直しがされており、平成31年度には森林環境贈与税の制度が実施される。*林班とは森林区画の単位。



返礼品を20品目に増やし、登録サイトを2社にした。平成30年12月現在185件、210万円となった。

議会の考え

森林環境贈与税の内容と県の森林整備計画、道志村の森林整備計画の整合性を図り、南都留森林組合とも連携して本事業の振興を図っていく。

今後は体験型なども返礼品に入れていき、納税者に道志村に来ていただき、村のPRに繋がればと思います。

紹介

しょうかい

道志村消防団

團長 山口時彦



自分たちの地域は 自分たちで守る

平成29年4月に道志村消防団団長の職を拝命しました、山口時彦と申します。

道志村消防団は、7分団（災害支援分団含む）及び音楽隊等が置かれ、消防団員174名で組織されています。消防団員は、会社勤務や自営業などで仕事をするかたわら「自分たちの地域は自分たちで守る」という郷

土愛護の精神に基づき、火災をはじめ台風などの災害発生時には村民の生命・身体及び財産を守ることはもちろんのこと、防災訓練や年末年始の火災警戒などにおいては防災意識の普及や防火指導のために活動しています。

地域住民の方々や消防団員が働く勤務先の皆様、また、消防団員の

ご家族には日頃から消防団活動にご理解、ご協力を頂き深く感謝申し上げます。

今後とも、災害発生時においては仕事中であるのにも関わらず、時には貴重な休日を返上して地域のために奉仕と献身の精神で活動する消防団員に対して、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い

いたします。

団長として、3月末まで残り少ない任期となりましたが、年末年始にかけて、火災等の発生する危険性が高い季節と

なっていますので、これまで以上に気を引き締めて、消防団員一同、地域住民の安全と郷土の繁栄のため、さらに尽力してまいります。



消防団の活動

がんばる人紹介

こだわりの両国屋を目指して



両国屋
湯川 和則さん

両国屋の前身は、月夜野の旧道で、祖父の湯川光沢吉が、釣り人・猟師のため営んでいた「木戸際」という屋号の宿でありました。その後、お客さんから「道志川の近くの方がいいのでは」というアドバイスもあり、昭和26年、両国橋が鉄橋に架け替えられるのを機に、橋の近くに屋号「両国屋」として移りました。また、昭和46年に現在の場所に移り、以来70年近くが経過しました。

社会情勢が変化する中、地域の方々やお客さん、釣り人の方々に活かされ「こだわりの両国屋」として、これまでやって

こられたことに感謝しています。

道志村の食材による健康料理の提供やカラオケ設備も充実させ、「ただいま」「おかえり」のあいさつが飛び交うお店づくりを心がけ、家族・スタッフ一同頑張っていますので、ぜひお立ち寄りください。



以前の両国屋

写真募集中

(議会だよりに掲載させていただきます)

広報常任委員会

委員長	菅谷 政文
副委員長	佐藤 長久
委員	杉本 孝正
委員	佐藤 進

編集後記

12月定例会も終わり議会だより41号をお届けします。私たちが広報委員となってから議会だよりの制作も本号で11回になりました。その都度定例会での一般質問、議案等の質疑、閉会中の議会活動等多くの情報を住民の皆様へ伝えてきました。この間、多くの広報研修、視察等を行い、「読みやすく」「身近に感じてもらえる」議会だより作りに取り組んできましたが、これからも積極的に研修に参加し、「読んでもらえる」議会だよりに取り組んでいきたいと思えます。

平成最後の新年を迎え、また、新たな年号の始まりです。住民の皆様には幸多い年であることを願います。

(杉本孝正)